

都市再生整備計画 事後評価シート  
県央大橋西詰周辺地区

令和4年3月

新潟県燕市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	燕市	地区名	県央大橋西詰周辺地区			面積	145ha			
交付期間	平成28年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	337百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業 公園[交通公園]、高次都市施設[観光交流センター]		事業名							
			提案事業 まちづくり活動推進事業[交流促進プロジェクト]									
			事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	当初計画から削除した事業		基幹事業 道路[市道大曲60号線、市道大曲61号線他1路線]、公園[大曲河川公園]、地域生活基盤施設[案内看板、自転車歩行者空間]		・削除となった全ての基幹事業については、関連事業の堤防築堤計画との工程調整のため、交付期間内での実施が困難となったことから、事業を取りやめた。		・大曲河川公園については、事業の取りやめにつき指標2(周辺施設の利用者数)を下方修正(150,092人/年→148,773人/年)する。					
			提案事業 地域創業者支援事業[産業史料館機能強化事業]		・計画の見直しにより、事業を取りやめた。(別事業として関連事業に移行した。)		・影響なし					
新たに追加した事業		基幹事業										
		提案事業 地域創業者支援事業[交通公園ゴーカートコース改修事業]、事業活用調査[事業効果分析]		・交通公園ゴーカートコース改修事業については、交通公園の集客力向上のため、園内施設の改修事業を追加した。 ・事業効果分析については、事後評価を実施するため、事業を追加した。		・影響なし						
交付期間の変更		当初変更	平成28年度～令和2年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	地区周辺の居住人口	人	15,722	H26年度	15,527	R2年度	15,516	△	あり なし	・計測の結果、評価値は15,516人となり、目標値15,527人にはわずかに至らなかった。ただし、事業を実施しなかった場合の人口15,423人を上回っていることから、目標達成度は「△」とする。 ・また、1年以内の達成見込みについては、状況の改善が期待できる事業や取り組みが予定されていないため、見込みは「無」と判断する。	-
	指標2	周辺施設の利用者数	人/年	128,808	H26年度	148,773	R2年度	146,151	△	あり なし	・令和2年度の周辺施設の利用者数は、令和元年末ごろからの新型コロナウイルス感染症の影響を受け、目標値を大幅に下回った。 ・そこで、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合の令和2年度の利用者数を推計し、これを評価値とする。 ・推計の結果、評価値は146,151人/年となり、目標値148,773人/年には至らなかった。ただし、事業を実施しなかった場合の利用者数138,159人を上回っていることから、目標達成度は「△」とする。 ・また、1年以内の達成見込みについては、各施設において利用者数の上乗せが期待できる事業や企画が予定されていないため、見込みは「無」と判断する。 ・なお、この評価値は推計値であるため、確定値を求めるためのフォローアップが必要であるが、令和3年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響が続く可能性があるため、これをもって確定値とする。	-
指標3									あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1							-				-	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通公園のニーズの高まり                     <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の利用者数は78,609人であり、年度全体では前年度の108,995人よりも減少した。</li> <li>しかし、4、5月の緊急事態宣言による乗り物の運行中止、3月のサイクルモレールの老朽化による利用中止を除く月の多くでは、昨年度を上回る利用者数となっており、コロナ禍にあって3密を回避できる遊び場として交通公園のニーズが高まっていることが窺える。</li> </ul> </li> <li>産業史料館における校外学習、修学旅行の受け入れの拡大                     <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大により修学旅行先の変更が相次いだ中、燕市では「産業観光ナビゲーター」を活用した修学旅行の受け入れを推進し、令和2年度は県内外から70件、3,257人が本市を訪れている。</li> <li>世界に誇る産業を通じたキャリア教育やものづくり体験の場である産業史料館でも、校外学習や修学旅行生を受け入れる機会が増えており、令和2年度の入館者数に占める小中高生の割合は31.8%と過去から大きく上昇している。</li> </ul> </li> </ul>											
	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
5) 実施過程の評価	モニタリング		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた		-					
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-					
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-					
住民参加プロセス		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた		-						
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-						
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-						
持続的なまちづくり体制の構築		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた		-						
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-						
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-						

## 様式2-2 地区の概要

### 県央大橋西詰周辺地区(新潟県燕市) 都市再生整備計画事業の成果概要

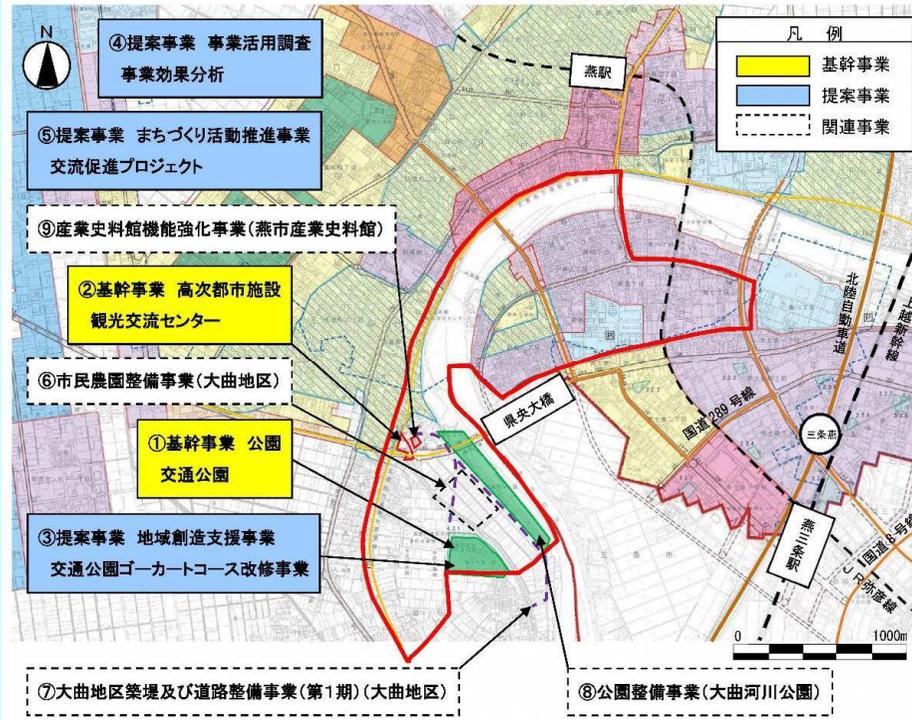
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 文化・交流の拠点づくりを通じた都市のコンパクト化への貢献	地区周辺の居住人口	人	15,722	H26年度 15,527 R2年度 15,516
目標1 豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の強化・充実を図ります	周辺施設の利用者数	人/年	128,808	H26年度 148,773 R2年度 146,151
目標2 拠点施設間の有機的な連携が可能となるよう一体性や回遊性を創出します				



△交通公園【公園】



△交通公園ゴーカートコース改修事業【地域創造支援事業】



△観光交流センター【高次都市施設】、産業史料館機能強化事業【関連】



△交流促進プロジェクト【まちづくり活動推進事業】

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業史料館は、体験工房館の新設や本館の展示機能の強化等によって情報発信や体験機能が強化され、利用者数が事業前と比べて増加した。</li> <li>また、同施設では、新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、近隣の校外学習や修学旅行生を受け入れる機会が増加している。</li> <li>交通公園は、園路整備やゴーカートコースの改修によって機能が強化され、加えて、3密を回避できる遊び場としてのニーズが高まってきている。</li> <li>産業史料館、交通公園、大曲河川公園の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少している。</li> <li>関連事業に位置づけている公園整備事業(大曲河川公園)及び市民農園整備事業は、産業史料館や交通公園とともに文化・交流拠点の機能強化を図るものであるが、未実施となっている。</li> <li>交通公園内の園路整備により、大曲河川公園へのアクセシビリティが向上した。</li> <li>交流促進プロジェクトでは、交通公園から産業史料館への誘客を促す企画が実施されたが、参加者が少なく、期待された効果が見られなかった。</li> <li>関連事業に位置づけている大曲地区築堤及び道路整備事業は、施設間をつなぐハード対策として期待されたが、未実施となっている。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業史料館は、新たに付加された体験機能を活かしながら、ハード・ソフト両面での機能強化・充実を継続する。</li> <li>交通公園は、3密を回避できる屋外空間としての利点を活かして、ハード・ソフト両面での機能強化・充実を継続する。</li> <li>既存の拠点施設について、コロナ禍における安全対策に工夫を凝らすことで、施設利用を促す。</li> <li>文化・交流拠点としての魅力や拠点性を更に高めるため、大曲河川公園の機能強化や新たな拠点施設の整備などの検討を進める。</li> <li>文化・交流拠点としての一体性や回遊性を創出するため、施設間をハード・ソフトの両面でつなぐ施策の検討を継続する。</li> <li>特にソフト施策の検討にあたっては、コロナ禍における安全対策、効果的な情報発信に留意する。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		指標1「周辺施設の利用者数」 150,092人/年	指標1「周辺施設の利用者数」 148,773人/年	公園(大曲河川公園)事業の取りやめにより、当該公園を整備する事で生じる直接的な利用者の増加が見込めないことから、指標の目標値を下方修正する。
D. その他(協定制度等の取り組み)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標 等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道大曲60号線	30:200m	—	—	—	・堤防築堤計画(関連事業)との工程調整のため事業を削除	・影響なし	—	—
道路	市道大曲61号線他1路線	30:400m	—	—	—	・堤防築堤計画(関連事業)との工程調整のため事業を削除	・影響なし	—	—
公園	大曲河川公園	20:—	—	—	—	・堤防築堤計画(関連事業)との工程調整のため事業を削除	・事業の削除に伴い、指標2を下方修正(150,092人/年→148,773人/年)	—	—
公園	交通公園	10:—	—	3:1,260㎡	—	・ゴーカートコースの改修を提案事業に移行した際に事業費・事業内容を変更	・影響なし	●	—
古都保存・緑地 保全等事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用 システム									
地域生活基盤 施設	案内看板	10:5箇所	—	—	—	・堤防築堤計画(関連事業)との工程調整のため事業を削除	・影響なし	—	—
高質空間形成 施設	自転車歩行者空間	20:1,600m	—	—	—	・堤防築堤計画(関連事業)との工程調整のため事業を削除	・影響なし	—	—
高次都市施設	観光交流センター	496:6,450㎡	—	325:869㎡	—	・用地交渉の不調により建設予定地を燕市産業史料館の未活用地に変更したため事業量を変更 ・また、工事完了による清算変更により事業費・事業期間を変更(減額)	・影響なし	●	—
中心拠点誘導 施設									
連携生活拠点 誘導施設									
生活拠点誘導 施設									
高齢者交流拠 点誘導施設									
既存建造物活 用事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標 等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
土地区画整理 事業									
市街地再開発 事業									
住宅街区整備 事業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標 等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	産業史料館機能強化事業	20	—	—	—	・計画見直しにより事業を削除(関連事業に移行)	・影響なし	—	—
	交通公園ゴーカートコース改修事業	—	—	5	—	・交通公園の集客力向上のため、園内施設の改修事業を追加	・影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析	—	—	3	—	・事後評価のため事業を追加	・影響なし	●	
まちづくり 活動推進事業	交流促進プロジェクト	3	—	1	—	・計画見直しにより事業費・事業期間を変更(減額)	・影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況 及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
市民農園整備事業		大曲地区	—	—	—	—	未完成	
大曲地区築堤及び道路整備事業(第1期)		大曲地区	—	—	—	R1~5	未完成	
公園整備事業		大曲河川公園	—	—	—	—	未完成	
産業史料館機能強化事業		燕市産業史料館	—	36	—	H29	完了	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標1 地区周辺の 居住人口	・住民基本台帳に基づく行政区別人口統計を用いて、令和3年3月31日時点の地区内及びその周辺に存する町丁目の人口を計測する。 ・計測時点で当該指標に直接影響する事業は全て完了しているため、計測結果をもって評価値(確定値)とする。 ・なお、調査対象の町丁目は、南1～7丁目、殿島1～2丁目、井土巻1丁目、秋葉町1～4丁目、水道町1～4丁目、仲町、宮町、穀町、新町、中央通1～3丁目、幸町、本町1～2丁目、白山町1～3丁目、寿町、大曲とする。	人		15,722	H26年度	15,527	R2年度	モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定 ● 見込み	15,516	事後評価		
指標2 周辺施設の 利用者数	・市の統計データを用いて、周辺施設である産業史料館、大曲河川公園、交通公園の令和2年度の利用者数を計測する。 ・計測時点で当該指標に直接影響する事業は全て完了しているため、計測結果をもって評価値(確定値)とする。	人/年		128,808	H26年度	148,773	R2年度	モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定 ● 見込み	146,151	事後評価		
指標3								モニタリング		モニタリング			
								事後評価	確定 見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・計測の結果、評価値は15,516人となり、目標値15,527人にはわずかに至らなかった。ただし、事業を実施しなかった場合の人口15,423人を上回っていることから、目標達成度は「△」とする。	・また、1年以内の達成見込みについては、状況の改善が期待できる事業や取り組みが予定されていないため、見込みは「無」と判断する。
指標2	・令和2年度の周辺施設の利用者数は104,315人/年となり、目標値148,773人/年を大幅に下回ったが、これは令和元年末ごろからの新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたものと考えられる。 ・そこで、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった場合の令和2年度の利用者数を推計し、これを評価値とする。 ・推計の結果、評価値は146,151人/年となり、目標値148,773人/年には至らなかった。ただし、事業を実施しなかった場合の利用者数136,159人を上回っていることから、目標達成度は「△」とする。	・また、1年以内の達成見込みについては、各施設において利用者数の上乘せが期待できる事業や企画が予定されていないため、見込みは「無」と判断する。 ・なお、この評価値は推計値であるため、確定値を求めるためのフォローアップが必要であるが、令和3年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響が続く可能性があるため、これをもって確定値とする。
指標3		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年前程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準 年度		基準 年度				
その他の数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		
その他の数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定 見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

<p>■ 交通公園のニーズの高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の利用者数は78,609人であり、年度全体では前年度の108,995人よりも減少した。</li> <li>しかし、4、5月の緊急事態宣言による乗り物の運行中止、3月のサイクルモノレールの老朽化による利用中止を除く月の多くでは、昨年度を上回る利用者数となっており、コロナ禍にあって3密を回避できる遊び場として交通公園のニーズが高まっていることが窺える。</li> </ul> <p>■ 産業史料館における校外学習、修学旅行の受け入れの拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の拡大により修学旅行先の変更が相次いだ中、燕市では「産業観光ナビゲーター」を活用した修学旅行の受け入れを推進し、令和2年度は県内外から70件、3,257人が本市を訪れている。</li> <li>世界に誇る産業を通じたキャリア教育やものづくり体験の場である産業史料館でも、校外学習や修学旅行生を受け入れる機会が増えており、令和2年度の入館者数に占める小中高生の割合は31.8%と過去から大きく上昇している。</li> </ul>
---

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )			

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )			

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
-	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会	都市整備部土木課	令和3年11月	都市整備部都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別							
指標名							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園(交通公園) ※園路整備						
	高次都市施設(観光交流センター) ※産業史料館の体験工房館の新設等						
提案事業	地域創造支援事業(交通公園ゴーカートコース改修事業)						
	事業活用調査(事業効果分析)						
	まちづくり活動推進事業(交流促進プロジェクト)						
関連事業	市民農園整備事業(大曲地区)						
	大曲地区築堤及び道路整備事業(第1期)(大曲地区)						
	公園整備事業(大曲河川公園)						
	産業史料館機能強化事業(産業史料館) ※本館の展示機能の強化等						

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用			
-------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2					
指標名		地区周辺の居住人口			周辺施設の利用者数					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	公園(交通公園) ※園路整備	△	・交通公園の園路整備やゴーカートコースの改修、産業史料館の体験工房館の新設や本館の展示機能の強化によって、文化・交流拠点としての機能が強化され、地区周辺の居住地としての価値が高まったことが指標の改善に貢献していると考え、影響度を「△」とする。	I	△	・産業史料館の体験工房館の新設や本館の展示機能の強化等によって、産業史料館自体の利用者数は事業前より増加したため、指標の改善に貢献していると考え、影響度を「△」とする。	III			
	高次都市施設(観光交流センター) ※産業史料館の体験工房館の新設等	△								
提案事業	地域創造支援事業(交通公園ゴーカートコース改修事業)	△	・交流促進プロジェクトは、地区内の拠点間の連携を強化し、地区周辺の居住地としての価値を高めるものとして期待されたが、企画への参加者が少なく、期待された効果が発揮できなかったため、これを目標未達成の間接的な原因と捉え、影響度を「×」とする。	I	△	・交通公園の園路整備やゴーカートコースの改修によって、文化・交流拠点としての価値が高まったことが指標の改善に貢献していると考え、影響度を「△」とする。	III			
	事業活用調査(事業効果分析)	-								
	まちづくり活動推進事業(交流促進プロジェクト)	×								
関連事業	市民農園整備事業(大曲地区)	×	・市民農園整備事業、大曲地区築堤及び道路整備事業、大曲河川公園整備事業は、同様に居住地としての価値を高めるものとして期待されたが、事業が進んでいないため、これを目標未達成の間接的な原因と捉え、影響度を「×」とする。	I	×	・交流促進プロジェクトは、地区内の拠点間の連携を強化し、地区周辺の来訪者の増加や回遊性の創出に寄与するものとして期待されたが、企画への参加者が少なく、期待された効果が発揮できなかったため、これを目標未達成の間接的な原因と捉え、影響度を「×」とする。	III			
	大曲地区築堤及び道路整備事業(第1期)(大曲地区)	×								
	公園整備事業(大曲河川公園)	×								
	産業史料館機能強化事業(産業史料館) ※本館の展示機能の強化等	△								

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>・文化・交流拠点を形成する産業史料館、大曲河川公園、交通公園などの機能を引き続き強化・充実し、拠点としての魅力を高める。</p> <p>・文化・交流拠点を形成する産業史料館、大曲河川公園、交通公園などの機能を引き続き強化・充実し、拠点としての集客力を高める。</p> <p>・文化・交流拠点を形成する施設間のイベントなどによる連携や回遊動線の整備などにより、拠点内の一体性や回遊性を高める。</p>	
------------------	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内意見照会	都市整備部土木課	令和3年11月	都市整備部都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の機能強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業史料館は、体験工房館の新設や本館の展示機能の強化等によって情報発信や体験機能が強化され、利用者数が事業前と比べて増加した。</li> <li>また、同施設では、新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、近隣の校外学習や修学旅行生を受け入れる機会が増加している。</li> <li>交通公園は、園路整備やゴーカートコースの改修によって機能が強化され、加えて、3密を回避できる遊び場としてのニーズが高まってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業史料館、交通公園、大曲河川公園の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少している。</li> <li>関連事業に位置づけている公園整備事業(大曲河川公園)及び市民農園整備事業は、産業史料館や交通公園とともに文化・交流拠点の機能強化を図るものであるが、未実施となっている。</li> </ul>	—
拠点施設間の有機的な連携を可能とする一体性や回遊性の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通公園内の園路整備により、大曲河川公園へのアクセス性が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流促進プロジェクトでは、交通公園から産業史料館への誘客を促す企画が実施されたが、参加者が少なく、期待された効果が見られなかった。</li> <li>関連事業に位置づけている大曲地区築堤及び道路整備事業は、施設間をつなぐハード対策として期待されたが、未実施となっている。</li> </ul>	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の機能強化・充実	・産業史料館は、新たに付加された体験機能を活かしながら、ハード・ソフト両面での機能強化・充実を継続する。 ・交通公園は、3密を回避できる屋外空間としての利点を活かして、ハード・ソフト両面での機能強化・充実を継続する。	・燕市産業史料館及び燕市交通公園におけるハード・ソフト両面にわたる機能強化・充実
	拠点施設間の有機的な連携を可能とする一体性や回遊性の創出	・文化・交流拠点としての一体性や回遊性を創出するため、施設間をハード・ソフトの両面ですなぐ施策の検討を継続する。 ・特にソフト施策の検討にあたっては、コロナ禍における安全対策、効果的な情報発信に留意する。	・施設間をつなぐハード施策の検討 ◇大曲地区築堤及び道路整備事業 など ・施設間をつなぐソフト施策の検討 ◇ウォーキングルートの設定 ◇施設間の連携による回遊イベント など

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策	豊かな市民生活を支え、市内外に魅力を発信する文化・交流施設の機能強化・充実	・既存の拠点施設について、コロナ禍における安全対策に工夫を凝らすことで、施設利用を促す。 ・文化・交流拠点としての魅力や拠点性を更に高めるため、大曲河川公園の機能強化や新たな拠点施設の整備などの検討を進める。	・既存の拠点施設における工夫を凝らしたコロナ対策の実施 ・大曲河川公園の機能強化に向けた検討 ◇親水機能の向上 ◇大曲河川公園ファンクラブの活動支援 など ・新たな拠点施設の整備に向けた検討 ◇市民農園 ◇全天候型子どもの遊び場 など
	拠点施設間の有機的な連携を可能とする一体性や回遊性の創出	・文化・交流拠点としての一体性や回遊性を創出するため、施設間をハード・ソフトの両面ですなぐ施策の検討を継続する。 ・特にソフト施策の検討にあたっては、コロナ禍における安全対策、効果的な情報発信に留意する。	・施設間をつなぐハード施策の検討 ◇大曲地区築堤及び道路整備事業 など ・施設間をつなぐソフト施策の検討 ◇ウォーキングルートの設定 ◇施設間の連携による回遊イベント など

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・特になし

添付様式5－④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2－①、2－②に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2－①、2－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地区周辺の 居住人口	人	15,722	H26年度	15,527	R2年度	確定 ●	15,516	△	あり	→	-	-	-
							見込み			なし ●				
指標2	周辺施設の 利用者数	人/年	128,808	H26年度	148,773	R2年度	確定 ●	146,151	△	あり	→	-	-	-
							見込み			なし ●				
指標3							確定			あり	→			
							見込み			なし				
その他の 数値指標1							確定				→			
							見込み							
							確定				→			
							見込み							

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	・予期せぬ社会情勢の影響を受けて、適切な評価が難しい場合は、定性的な評価などを含めた総合的な評価が望まれる。
	うまくいかなかった点	・指標2「周辺施設の利用者数」は、計画期間中に新型コロナウイルス感染症の流行が始まったことがあり、適切な評価が難しかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	・今回の評価委員会は、燕地区、分水地区第2期、県央大橋西詰周辺地区の3地区合同で実施されたため、3地区の連携(拠点間の周遊)について意見があるなど、広い視野を持って評価が行われた。	・評価委員会の開催にあたっては、より効果的な審議がなされるよう、委員の選定や開催のタイミングなどを工夫することが望まれる。
	うまくいかなかった点	—	

### 添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の交付金の活用予定

令和5年度より燕地区都市構造再編集集中支援事業を実施する予定である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページでの公開	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)	郵送 ファックス 電子メール 直接持参	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	都市計画課窓口での閲覧	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)	令和3年12月22日(水) ～令和4年1月7日(金)		

住民の意見	・意見なし				
-------	-------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	樋口 秀 委員長（新潟工科大学教授）	令和4年1月13日(木)	都市計画課	社会資本整備総合交付金 評価委員会要綱	燕市都市計画審議会
その他の委員	小林 理恵子 副委員長（市民代表） 鈴木 則昭 委員（新潟県三条地域振興局地域整備部長） 田野 隆夫 委員（燕商工会議所会頭）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にか かる審議	方法書	・方法書に沿って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・特になし
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・目標達成度が△となった指標2「周辺施設の利用者数」について、コロナの関係で産業史料館のワークショップが開催できなくなったことなどが要因との意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表方法は妥当であると認められた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまち づくりにつ いて審議	今後のまちづくり方策の作成	・産業史料館、交通公園、大曲河川公園はコロナの影響を受けて利用者が大きく減少しているが、安全対策に工夫を凝らすことで施設利用を促してほしいとの意見があった。 ・大曲河川公園は親水機能を高める必要があるとの意見があった。 ・また、それに関連して、大曲河川公園ファンクラブがUボートのイベントを開催していることが紹介され、そのような活動に対して支援を行い、市民にアピールすることが重要との意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・県央大橋西詰周辺地区のまちづくりはまだ発展途上との意見があった。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。